

※シネコヤスタッフ4人を選びました！

私の好きな映画	「ゆきゆきてて神軍」(1987年、日本)
	「ハッシュ！」(2001年、日本)
	「めぐりあう時間たち」(2002年、アメリカ)
	「天然コケッコー」(2007年、日本)
	「しあわせな孤独」(2002年、デンマーク)

- 毎月第2・4土曜日17時～
- 会場「シネコヤ」(藤沢駅北口遊行人通り徒歩3分、藤沢サービスセンター1F奥)
- 入場無料
- 問合せcinekoya@scmn.info
- 【今回の上映】テーマ「男が光る映画」
- 4月14日(土)17時～
「紳士協定」(1947年、アメリカ)
- 4月28日(土)17時～
「オール・ザ・キングスメン」(1949年、アメリカ)

- 「つながり生きる力」**イベント**
～大島渚・小山明子、その夫婦の絆～
●5月13日(日)10時15分～16時半、「かながわ女性センターホール」(江の島)●前売り券＝一般1,300円(当日1,500円)、シニア・学生1,000円(当日同額)●大島渚監督作品上映『少年』(戦場のメリークリスマス)、ゲスト対談＝川又昂氏(撮影監督・藤沢市在住)、講演＝小山明子氏(女優・藤沢市在住)●問合せTEL0466-62-2288 NPO法人湘南市民メディアネットワーク。

「藤沢から映画館を無くしちゃいけない。定員10名の小さな小さな映画館です」

NPO法人湘南市民メディアネットワーク
シネコヤ 竹中翔子さん



「藤沢オデヲンが閉館した時、このままでは藤沢から映画館が姿を消してしまうという危機感を感じて、『映画館を作りたい』という思いが湧いてきたんです」と話す竹中さん。親団体でもあるNPO法人湘南市民メディアネットワークに所属し、子どもたちと映像を作ったり、湘南映像祭を開催したりと、映像メディアを通して人や地域、社会と繋がりを持つ活動に携わってきた。「映画館を作るなら、映画を通してコミュニケーションが生まれる場所にしたいと思いました」。

2007年からイベントとして上映会を年数回開催し、現在の場所にシネコヤを開設したのが2010年。図書館所蔵の16mmフィルムや著作権切れの作品の中から、毎月テーマを決めて選定した作品を月2回上映している。入場は無料で予約も不要だ。映画ファンのお客様から伺う話はとにかく面白いですよ。映画全盛期時代の話やお勧めの映画を教えて下さったり。シネコヤやミニシアターと共存して、映画産業を支えるモデルケースになればうれしいですね」

「映画の話をする時に思います。私って本当に映画が好きなんだな～って(笑)」



- 私の好きな映画
- | |
|----------------------|
| 「戦艦ボチヨムキン」(1925年、ソ連) |
| 「芙蓉鎮」(1987年、中国) |
| 「無人の野」(1980年、ベトナム) |
| 「蝶の舌」(1999年、スペイン) |
| 「若者たち」(1967年、日本) |

茅ヶ崎良い映画を観る会 福田やよいさん

「1980年代後半に茅ヶ崎から映画館が無くなってしまい、映画好きの私は神保町の岩波ホールまで行っていました。『厳戒令下チリ潜入記』(※)というドキュメンタリー映画に感銘を受けて、当時一緒に文化活動を行っていた仲間たちと上映会を開催したのが1987年のことでした」。

上映会は大盛況に終わり、地元で良い映画を観る機会を作ろうと、翌1988年より同会の活動がスタート、今年で24年目になる。会員制で、上映会は毎月1回。更に年3回ほどは会員以外も参加できる上映会を開催する。外国のものや独立プロのものなど、茅ヶ崎まで届きにくい作品を上映するのがこだわりだ。1999年からは「茅ヶ崎平和映画祭」と題し、毎年8月に戦争や原爆を題材にした映画を取り上げている。

映画が華やかだった時代、映画館のにぎわいが大好きだったという福田さん。「今は家で1人で観ることもできますが、お客様を見ていると、共に涙したり、終演時に拍手が起きたり。やっぱり誰かと同じ映画を共有する「映画館」が求められているのかな、と感じます」。今年2月の上映会は大雪だったにもかかわらず500人以上が来場した。

※ヨーロッパに亡命中のミゲル・リテン監督が、入国を禁止されている身でありながら6週間にわたって本国に潜入。軍事政権下の祖国を映し出した作品。

- 例会(会員のみのみ)毎月1回●入会金500円●月会費800円
- 茅ヶ崎市民文化会館大会議室(茅ヶ崎駅北口徒歩8分)
- 問合せTEL0467-83-7744(木村さん)/夜TEL0467-86-8038(福田さん)
- 【今回の上映】
- 4月27日(金)14時～/19時～「田舎の日曜日」(1984年、フランス)
- 6月20日(水)特別例会(一般上映会)作品未定@茅ヶ崎市民文化会館小ホール

「映画という素晴らしい文化を後世に継ぐ。映画の黄金期に育った世代からの恩返しです」

シネマテーク茅ヶ崎 福田浩三さん

「映画は貴重な文化遺産。「娯楽＝映画」の時代に青春時代を過ごし、歴史や流行や生き方を学んだ私たちだからこそ、後世に残す機会を作りたいと思いました」。1993年、福田さんはまず小和田公民館での映画上映企画に参加。その後活動の幅を広げるため、2008年に同会を発足した。

初期の2年間は映画の誕生から創世記の無声映画を并士付きで上映。一昨年から、湘南にゆかりのある映画人をテーマに、映画関係者の講演と上映を合わせた企画を進めている。この企画の実現には茅ヶ崎在住の映画監督・大嶺俊順氏の尽力が大きく、講演には、脇田茂プロデューサー(松竹の元取締役)、森崎東監督、松本隆司音音技師(山田洋次監督の作品を担当)、大島渚監督の妻であり女優である小山明子さんなど、映画好きにとっては「プラチナチケット」ともいえる面々が登場する。上映会は毎回満員御礼だ。

「無料で上映できるのは、来場の皆様や大嶺監督はじめ映画関係者、松竹、図書館、当会スタッフ、マスコミなど多くのご支援のおかげです。図書館があるように、映画のライブラリーが各地域にできれば素晴らしいですね。映画への敬意が福田さんを動かしている」。



- 上映会2ヵ月に1回程度
- 茅ヶ崎市民図書館(茅ヶ崎駅南口徒歩7分)
- 入場無料・先着60名
- 問合せTEL0467-86-6751
- 【今回の上映】
- 5月13日(日)13時半～、ゲストトーク:樋口伊喜夫氏(藤沢市在住/撮影技師/中川信夫監督の遺作を担当)、大嶺俊順氏(茅ヶ崎市在住/監督)。上映:『怪異談生きてゐる小平次』(1982年、中川信夫監督)

シネマテーク茅ヶ崎 **検索**

私の好きな映画

「赤い風船」(1956年、フランス)	「冒険者たち」(1967年、フランス)
「七人の侍」(1954年、日本)	「野いちご」(1957年、スウェーデン)

第三の映画館

The third theater

ミニシアターが消え、レンタルDVDやインターネット動画全盛期の時代。しかし悲しむことなかれ、私たちに映画を観る機会を与えてくれる場所は、地元にかくさんあったのだ。長年、質の良い映画を提供し続けている団体から新しい映画文化を提案する若者まで、5つのグループに「熱い思い」を語ってもらった。

「まるでテーマパークに行くような今までにない面白い映画館を作りたい」

輪輪(わわ)シネマ 高林健さん 長谷川文乃さん

2010年に閉館した映画館・フジサワ中央の元スタッフ2名が作り出す、新感覚の映画上映空間。「元々映画は好きだったのですが、映写技師として携わるうちに、上映スタイルや映画館という空間について自分なりに思い描くようになった」という高林さん。映画産業が好況とは言えない時代に「魅せ方」を工夫することで、まだまだ映画は必要とされる存在になれる」と考えている。現在は移動式映画館という形をとりながら2ヵ月に1回ペースで上映、10年以内に常設館の設立を目指す。作品は、湘南では観ることのできない「新作映画」にこだわり、「多くの人に、気軽に」観てもらえる偏りのないものをセレクトする。

記念すべき第1回目は、ジョンレノンの命日・12月8日に「ジョンレノン・ニューヨーク」を上映。来場者は2日間で約400人と大盛況で、イスやソファ、座布団など自由な態勢で見られる工夫やアメリカンな料理の提供、70年代の映画のパンフレットやジョン・レノンの作品の展示等で演出した。

「映画のストーリー、ロケーション、空気観など、映画とリンクする空間を作りたい。「場所」として興味を持ってもらうのもうれしいです」(長谷川さん)。

- 【今回の上映】●「さすらいの女神(ディーバ)たち」(R15+)
- 4月21日(土)22日(日)11時～/15時～/19時～●@Beeclub(茅ヶ崎駅北口徒歩5分、農協手前鴨志田ビル1F)●ドリンク&フード&無料託児付き上映●一般・大学生1,200円、シニア・高校生1,000円●問合せTEL090-8309-7419(長谷川さん)

「映画はコミュニケーションツールとして成立する！そこに美味しいコーヒーがあったらシアワセ」

Fujisawa cinema×cafe 福井真紀子さん

今年3月から、藤沢市内のカフェを拠点に映画の自主上映企画をスタートしたばかり。「小さい頃の映画の思い出は、赤い絨毯やピロードの緞帳と共にあります。どこか特別な場所に来たようなワクワクする気持ち。映画って、観た場所や一緒に観た人とセットで思い出になるんだなと感じて、大好きなカフェでそれができれば、と」。1年前からシネコヤ(上段)の活動に参加し、映画を通じて様々な年代の方々と楽しく話ができることに感銘を受けたそう。「今はネットで語り合うこともできるけれど、私は直接お会いして話すことで、驚くほど自身の映画観が広がりました。映画について熱く語りたい! と思っている方はたくさんいらっしゃいます。コミュニケーションツールとしての映画に可能性を感じました」。

鎌倉出身だが、中・高と藤沢の学校に通っていたため、今でも藤沢が「ホーム」。「ミニシアターは無くなってしまったけれど、藤沢という街の新しい楽しみ方として根付いていけたらうれしい。そしていつか、映画好きな人もカフェ好きな人も楽しめるカフェを作るのが夢なんです。福井さんは目下あこがれのカフェで修業中だ」。

ふれあい朝日

朝日新聞の地域情報紙

No.286

発行:湘南新聞販売株式会社/編集:「ふれあい朝日」編集部 / 〒253-0044茅ヶ崎市新栄町1-14/TEL0467-82-3618/FAX0467-84-0342/配布エリア:茅ヶ崎市(一部除く)藤沢市(引地川以西)綾瀬市(一部)メール:fureai@asahi.email.ne.jp/URL=http://www.shonan-sh.jp/company/

新聞に関するすべてのお問い合わせ・ご連絡は
☎0120-033-084
朝日新聞カスタマーセンターへ
受付時間:5時～20時(日・祝17時迄)

新聞お休み・お取り置きのご連絡は
無料 やすみん サービスが便利です!
パソコンから **やすみん 湘南 検索**
<https://www.yasumin.com/shonan/>
携帯電話から
※読み込めない場合は<http://www.yasumin.com/shonan/mo>にアクセスしてください。
※通話料・通信料は発生します。



- 輪輪シネマ **検索**
- | |
|-------------------------------|
| 「崖」(1955年、イタリア) |
| 「クークシュカ ラップランドの妖精」(2006年、ロシア) |
| 「オテサーネク 妄想の子供」(2000年、チェコ) |
| 「僕らのミライへ逆回転」(2008年、アメリカ) |
| 「トウキョウソナタ」(2008年、日本) |

私の好きな映画



Fujisawa Cinema×Cafe **検索**

- 私の好きな映画
※フランス映画から選んでみました!
- 「すべての些細な事柄」(1996年)
 - 「バリとところどころ」(1965年)
 - 「バリ・ジュテーム」(2006年)
 - 「バリ空港の人々」(1993年)
- 【今回の上映】
●7月開催予定(年3～4回)
●上映会場(藤沢市内のカフェ等/定員30名位)も募集中!!
●問合せ
fujisawacinemacafe@gmail.com